

## 第五期基本構想・長期計画策定委員会 傍聴者意見提出シート

提出日 平成 22 年 11 月 8 日

氏名	[REDACTED]
住所	境南町 [REDACTED]
意見	<p>策定委員の皆様、市職員の皆様、本委員会での報告・検討ご苦労様です。今回は論点整理ということですので、そこに向けて意見を述べさせていただきます。</p> <p>今後の10年を考えた論点整理を土佐子にあて、2008年に策定された「第四期長期計画・調整計画」の「第二章 調整計画の基本的な考え方」を1つの参照枠にしていただければいいかと考えます。ここに書かれている「基本的な視点」について加筆・修正が必要かどうか、また、重点課題についても加え子母の修正が必要かどうかを検討していただきたいと思います。以下、私見を述べます。</p> <p>1. 基本的な視点</p> <p>「基本的な視点」として土佐子3つの点は、現在も重要な視点であると考える。</p> <p>その上で、第1の視点について、「小規模分散」という考え方を検討していただきたいと思います。「市庁会議」の提言の中にも「居場所」という表現があります。NPOや市民活動が作り出す小さな場所や活動が、市内に分散してあるということから「施設づくり」から「サービス内容」重視へと変わり、この形ではいいかと考えます。そのよりの活動の開始及び継続にあたり、個々の活動の状況に合わせたサポートを、市が行なうという形がいいと思います。(裏面へ)</p>

※策定委員会終了後、事務局(企画調整課)にご提出ください。FAX、メールでの提出も可能です(FAX:0422-51-5638 メールアドレス:sec-kikaku@city.musashino.lg.jp)

※ご意見は、策定委員会策定委員に傍聴者意見として紹介します。なお、ご意見に対する個別の回答はいたしかねますので、ご了承願います。

※ご意見は策定委員会事務局で保管し、第五期基本構想・長期計画策定委員会以外の目的では使用いたしません。

第2の点について、自助-共助-公助のバランスは重要ですが、そのバランスは課題に応じて異なると考えます。例えば防災に関しては、まず大事なのは自助であり、その上で地域社会での共助の取り組み（災害時要援護者支援事業など）をすすめることや、防災センターで市内全域の状況を把握しつつ、医療関係者や物資を手配する公助の取り組みが必要になります。しかし、障害を抱えた人や高齢者、DV被害者やホームレスの人など、その人のおかげでこの状況が深刻であればある程、その人の生活の基礎的な部分（住居・収入・医療・生活支援など）をまず公助で支え、地域生活上の支の網目（サポート）を共助で行ない、その上でその人が自分でできることを増やすこと-自助の部分を少しづつ増やしていく、というように思います。このように、課題に応じた自助-共助-公助のバランスについて、検討していただくには、と思います。

第3の点について、武蔵野市に入ると、今後ますます文化施策の重要性が増してくると考えます。第4期長期計画・調整計画では、P.59~P.60で武蔵野市の文化の特徴を「都市の文化」「学術的文化」「緑を母文化」「自治の文化」と表現し、「文化」として把握すべき範囲を広くとらえていきます。この視点は、ぜひ継承していただくべきだと思います。特に、ここからの市民協働と共助の時代には、市民の主体的で多様な学びと行動に根ざした自治の文化と風土の醸成は重要だと考えます。2011年オープンした武蔵野プレイスの市民活動フロア、市役所2Fの市民協働カサロン、そしてまちは各種地域に14所、自治の文化の醸成・活性化の拠点があると思います。

そして、ここはとりあげられていませんが、第4の点として、各種計画を市と市民の協働で評価することもあげておきたいと思います。第4期長期計画・調整計画も、ふたつと行政内部では各事業の進捗状況は確認されていると思いますが、市民参加での評価は行なわれていません。この点について、第二次男女共同参画計画は、計画策定後に計画のアクションプランの進捗状況の確認と、内容について一定の評価と提言が行、市民会議が開催され、行われました。ここに行政職員も委員として加わり、一層に評価していく仕組みを、各種計画についてつくっていくのがよいと思います。また、評価に際して、①質的評価の検討・導入、②評価の複合的な視点をもちだすこと、等が大事だと考えます。例えばまちの中に緑が増えたりこの良土や市民同士が互いに声をかけ合い交流をたげたりと、或いは特別困難に陥った人たちのかけ強い支援などに質的な評価が求められます。また、まちづくりの計画に、環境・子育て・福祉・コミュニティ・文化などの視点が盛り込まれているか評価する必要があります（逆もあります）。

邑上市長は、先日行なわれた、子育てをテーマにしたタウンミーティングの中で、「子どもアクションをくりましたか、ここに書かれていることだけやるのではありません。」と話し、計画を固定的なものとしてとらえない見方を強調されました。各種計画が、生き生きとしたダイナミズムの中的位置づくよう、検討していただくべきだと思います。

※ 少し長くなりましたが、「2. 重点課題」については、次回意見を述べさせていただきます。